

2011.08.17

ご支援をいただいたみなさま

鹿島台 おやじの会

照井貴広

支援物資のご報告No.15

－気仙沼のPC－

ご報告が遅れまして恐縮ですが、7月のPC支援につきまして、ご報告させていただきます。

去る、7月22日(金)に、私(鹿島台 おやじの会 照井)と仙台連坊おやじの会OB 中野さんと「気仙沼」に行って来ました。行きは国道346号で鹿島台→涌谷→南方→佐沼→気仙沼(本吉)→気仙沼のルートで行きました。

車中では、仙台での被災のことや、子供のこと、「扇風機」のことまで、話が尽きませんでした。特に私が、中野さんとは「個人的」に親しいわけではないのですが、[実際に、お会いするは数回程なのですが···]いざその時になると、まるで「生まれた時」からの、付き合いのようになるのが「お父さんたちのネットワーク」の凄いいところでした。(笑)

そんな車中でいよいよ沿岸部へ到着しかかっていた時です、私は気仙沼に行くときいつも立ち寄っていたスーパー(SC)があるので、そこで休憩しようと言いました。そこは旧 本吉町の かなりの山の中で、私がいつも家族と一緒に気仙沼行きの際には必ず立ち寄っていたところなのです。ところが、その場所でさえも津波の影響があったばかりではなく、当然、営業もしていませんでした。おまけに、瓦礫置き場になっていたのです。ショックで言葉がでませんでした。

その場所を、通り過ぎていよいよ沿岸部に出ました。2人して「なんで···」の繰り返しでした。あちこちで、ここから「津波被害想定区域」の看板がむなしく残っていました。国道45号線沿いですが海拔30～40Mはあったと思います。かなりの高い場所までが津波の「被害」に会っています。また、隣り合った家でも片方は被害に遭い、もう片方は無事といった具合に、どこで分かれるかがまったく解りませんでした。

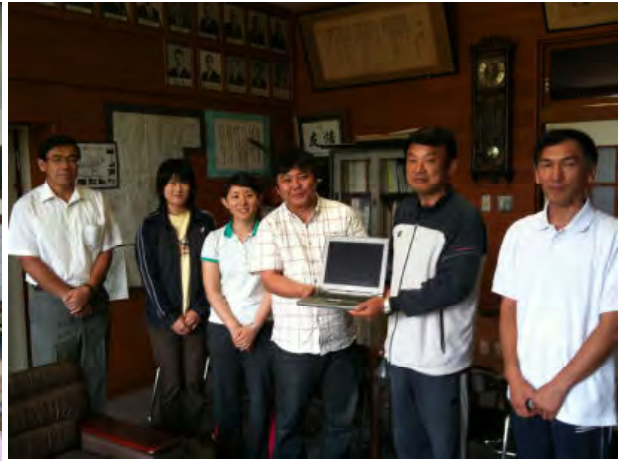
私の「記憶」の中にある、国道45号線沿いの「海水浴場」は何処にも何にもありませんでした。とくに「大谷海水浴場」は息子が生まれて、初めて行った海水浴場なので思い出が深いのです。また、気仙沼線は、僅かに駅の名残があるばかりで線路もホームもすべて無くなっていました。

その後も、45号線沿いの被害にあった場所を、通り過ぎながら気仙沼市立水梨小学校へ向かいました。途中、田んぼの真ん中や、道路の隅に未だに「船」が打上げられてそのままになっていました。車のナビに案内されて、現地へ到着しました。

気仙沼市立 水梨小学校は、高台の為地震・津波の直接被害には遭遇しなかったものの、校庭の半分を仮設住宅で使用できず、毎年行われてきた「地域住民参加の大運動会」の開催を本年度は、見送られた旨の説明を受けました。



水梨小学校の玄関



遠藤校長先生と、先生方

また、学校児童の80%以上の保護者が、「水産」・「水産加工」関係の仕事に従事しているとの事で、決して学校生活が平穏に過ごせている状態ではなく、しかたなく転出している児童少なからずいるとのご報告をいただきました。

学校に勤務されている先生方は、大部分が津波の被害にあった気仙沼市街地に居を構えておられるとのことで、今回のノートPC支援品を大変喜んでいただきました。ある先生のお住まいは、いまだに、(7月22日現在)インターネットに接続出来ないとのことでしたが、業務上PCは必ず必要なのですぐに仕事で使わせていただくとのことでした。水梨小学校へは5台のノートPCを支援させていただきました。あまりに、素晴らしい校舎なので「見学」をさせていただき、最終目的地へ向かいました。

この旅(?)の最終目的地は、私がこの活動を開始するきっかけになった、「宮脇書店 気仙沼」です。私が経営しております「宮脇書店 鹿島台店」とおなじチェーン店の「宮脇書店 気仙沼」は、宮城県内でも屈指の大規模書店(330坪)として気仙沼地域の文化・生活の発展に貢献してまいりました。店長の小野寺氏とは、十数年来のお付き合いをさせていただいております。

「宮脇書店 気仙沼が、燃えている」とラジオの音声から聞こえたのは3月11日の夜遅くでした。(実際は、火事になったのは近くの海上とそこにあった船だったそうです。)彼の安否を確認すべく連絡がとれたのは、当方でやっと電気が通じた10日後のことでした。幸い小野寺氏とご家族、また勤務していた店の従業員も高台にすぐ避難し、無事だったとのことでした。しかし、小野寺さんの自宅は津波ですべて流され、残ったのは店に持っていったカバン一つのみだったそうです。また店舗も津波で天井まで浸水し、近隣の家が店内に流れ込み商品30万冊と什器・備品もすべて流されてしまったとのことでした。



津波が引いた後の「宮脇書店 気仙沼」(Twitterより)

話の中で、何か支援をさせていただきたいと申し出でましたところ、「高価なもので頼みにくいが、パソコンが欲

しい。」との返事をいただき、とりあえず1台手配し送りました。その後も、パソコンのパーツ等を送って支援を続けてきました。小野寺氏は避難所で長いこと生活をされて、仮設住宅へやっと移ったのは6月末だったそうです。被災した店の従業員や、仮設住宅で近所の方もPCを欲しがっているとのことで数を取りまとめてもらいました。ノートPC 5台とデスクトップ3台を支援させていただきました。(デスクトップは中野さんにも、2台ご提供いただきました)

宮脇書店気仙沼は現在、駐車場でテントを張っておそらく日本で唯一の「青空書店」で週末に営業しており、当日もたくさんのお客様で賑わっていました。11月までには新店舗で営業できるようにしたいとのことでした。

50台以上のPCをご提供いただきましたリースケール・セミコンダクタジャパン様および東北セミコンダクタ様 両社関係者の皆様には深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



宮脇書店小野寺氏と